

<書 評>

Barry A. Edelstein, et al: 著

Behavioral Assessment and Rehabilitation of the Traumatically Brain-Damaged

大橋正洋（神奈川県総合リハビリテーションセンターリハ医学科）

ここに紹介する本は、応用臨床心理シリーズの11冊目として Plenum Press から発刊されたもので、米国およびイスラエルの各施設からの14人の臨床家によって共同執筆されている。この編集意図は、脳外傷患者の持つ精神的機能障害たとえば失語症や記憶障害、あるいは患者の家族による問題行動のマネジメントといったことをテーマとして、行動科学にもとづいた評価方法と、具体的な対応法を総合的に提示することを目指している。

神経心理学的検査方法 については、Luria-Nebraska Neuropsychological Battery (LNB) を紹介しているが、これはソビエトの神経心理学者である Luria の思想を基盤としている。すなわち、人間の示す行動とは、人間の脳が持つさまざまな独立した精神機能が相互に影響しあい、鎖のように連なった結果発現するもので、脳損傷患者がある特定の行動を示すことが出来なくなったときに、治療の対象として障害された行動全体をとらえるのではなく、鎖の壊れた部分を正確に発見して、その機能の回復に努力を集中するほうが効果的であるというものである。そのため LNB の使用目的は、脳損

傷の部位診断よりも、障害の評価後具体的な治療プログラムを作ることを助けることにあるという。

この例に示されるように、この本は心理学あるいは行動科学の立場から書かれたものではあるが、その目的とするところは脳損傷患者のリハビリテーションである。文献の引用は豊富であり、しかもこの分野における up-to-date な知識が得られる。治療方法についても、成功例を挙げて具体的に記されている。

ただし全体を見ると、必ずしも体系的治療法が確立しているとは思われず、これはこのようなアプローチの歴史の浅さと関係があるのかもしれない。本書の主題とは別に、主として米国の主要な脳外傷リハセンターで、それぞれにユニークな、しかも真剣なアプローチが行われているということに注目したい。

(Plenum Press, 1984, 頁 346, ¥ 15,160 医学書院洋書部取り扱い)